

困難な状況下でも良好なライフスタイルを実践する女性たちの発掘と  
問題解決法の解明に関する探索的検討

研究分担者 大淵 裕美 奈良学園大学助手

### 研究要旨

**目的：**困難な状況下でも主体的な健康づくりを実践する者(ポジデビ)の行動特性の解明を試みた。

**方法：**対象は、身体的・精神的な主観的健康感が良好なシングルマザーとした。モニター会社を通じ、一都三県(東京・神奈川・埼玉・千葉)に居住するサンプル 4,181 名を対象にスクリーニングを実施、53 名を抽出した。その後、本研究の条件を満たす対象者 15 名を選定し、2016 年 11 月に個別インタビュー調査を実施した。インタビュー直後の記録から、最終的に 14 名をポジデビと断定し、分析を行った。

**結果：**ポジデビ共通の特徴として、心身の健康を維持する行動、サポートネットワークの保持、経済的資源の確保が明らかになった。さらに、先鋭的なポジデビの特徴として、自らの力で問題解決する志向性、徹底的な情報収集に基づく意思決定、経済的資源の確保や節約法に関する知識・方法を保持し、暮らしを豊かにする行動の習慣化、確立されたライフスタイルと他者への発信が析出された。

**結論：**シングルマザーという困難な状況下に置かれたポジデビの女性たちは、心身の健康維持行動をいくつか、健康維持の土台となる生活基盤安定のためにサポートネットワークの保持や、経済的資源確保の工夫などといった、社会資源を生活資源に活用する行動特性が見られることが明らかとなった。

### A. 研究目的

本研究では、困難な状況下でも主体的な健康づくりを実践できている少数派(ポジデビ)を特定し、その問題解決法を明らかにすることを目的とする。特に、困難な状況に置かれている女性の中でも、シングルマザーに着目する。

近年、18 歳未満の子どものいる母子世帯は増加の一途をたどっている。国民生活基礎調査によると、1988 年の 55,400 世帯から 2011 年では 82,100 世帯と増加している。国内では、シングルマザーの生活実態や就労に関する研究が行われている<sup>1)2)</sup>が、海外では、シングルマザーの健康状況に関する研究が蓄積されており<sup>3)-6)</sup>、他の家族形態の女性と比較してシングルマザーほど健康リスクが高いという指摘がある<sup>7)</sup>。

そこで、本研究では、未だ十分に明らかになっていない国内でのシングルマザーの女性たちが健康づくりにおいてどのような工夫をしているのかに焦点を当てる。その際、シングルマザーの中でも、困難を乗り越えて生活を維持している女性たちを「ポジティブな逸脱者(Positive Deviance)」<sup>8)</sup>ととらえ、問題解決法を探索的に解明することを試みる。特に本研究では、先行研究を踏まえ、シングルマザーの中でも、身体的・精神的な主観的健康観の高い女性を抽出し、彼女たちの行動特性の解明を目的とする。

### B. 研究方法

#### 1. 対象者の選定と調査方法

モニター会社を通じ、一都三県(東京・神奈川・埼玉・千葉)に居住する未婚・離別・死別の

子どもを持つ女性 4,181 名を対象にスクリーニング調査を実施し、53 名を抽出した。その後、身体的・精神的健康感が良好で、飲酒・喫煙・休養のリスク行動の重なりがなく、末子が 20 歳未満の者という本研究の条件を満たす対象者 15 名を選定した。なお、身体的又は精神的健康感のいずれかが「まあ良い」以上に該当した者を抽出条件の 1 つとしたが、対象者では 13 名 (86.7%) が両方該当していたのに対し、全体では 23 名 (43.4%) に留まっていた。一方、暮らし向きは「大変苦しい・やや苦しい」と回答していた者は 12 名 (80%) で、全体の 32 名 (60.4%) に比べて多かった。一方、喫煙・飲酒・休養等のリスク行動が重なっている者は少なかった(詳細は表 1～3 参照)。

2016 年 11 月に、15 名を対象に個別インタビュー調査(一人約 1 時間～1 時間半)を実施した(表 4～6 参照)。インタビュー内容は、健康行動・心理社会的行動等とし、ICレコーダーに録音後、逐語録を作成した。

(倫理的配慮)

対象者には紙面及び口頭にて研究の目的・内容、研究参加は自由意思によると説明を実施した。同意が得られた場合にのみ、同意文書に対象者本人による署名を得た。本研究は、女子栄養大学倫理委員会の承認を得て実施した(承認番号第 85 号)。

## C. 研究結果

### 1. 対象者の概観

#### (1) シングルマザーへの経路

対象者の多くは、夫の経済的問題や DV(精神的・身体的・経済的)が原因で離婚をしていたが、13 人は、経済的に安定する見通しを立てた状態でシングルとしての生活を開始していた。具体的には、独身時代から現在にかけてフルタイムで働き続けている(2 名 : A、O)、離婚前に貯蓄をするなどして生活の基盤づくりを行う(C、D、F、I、N)、養育費の支払いが行われるよう公正証書を作成する(B、C、F、H、J、M、N、O)など

であった。

#### (2) 心身の健康を維持する行動

心身の健康維持に関する取り組みでは、身体面と精神面に大別された。身体面では、運動習慣と食生活が挙げられた。運動習慣では、ウォーキング(D、F、N)、自宅でのエクササイズ(M)、ジムに通う(B、C)、ジョギング(I)、筋トレ(O)、半身浴(F)を日常的に行っていると回答した。ただし、ジムに関しては、子どもが中学生以上になってから定期的に通うようになったという(B、C)。

食生活は、3 食摂取(J、K)、添加物を取らない(A、M、N)、塩分を控える(L)、糖分を控える(D)、地場食材の摂取(D、H、L)、ココナッツミルク等の健康食品の摂取(F)、菓子の手作り(A、I、M)に取り組んでいた。

その他、衛生(うがい・手洗い・予防注射接種)への心がけ(A、C、F)や、規則正しい生活習慣(O)や仮眠を取る(C)などがあった。

次に、精神面に関する取り組みでは、趣味や社会活動への参加が挙げられた。趣味では、自宅での趣味活動と外出を伴う趣味活動に大別された。まず、自宅での趣味活動として、家事・室内の模様替え(M)、ガーデニング(K)、料理(I、M)、犬の世話(G、L、O)、テレビ・DVD 観賞(A、H、M、O)、ゲーム(A、F)、読書(M、K)、音楽鑑賞(C)、ストラップ・ネックレスなどの手作り(N)を行っていた。次に、外出を伴う趣味活動では、映画館での映画鑑賞(M、O)、コンサート(B、O)、お笑いライブ(E)、家族・同僚・友人との外食(A、C、F、H、I、K、L)が挙げられた。さらに社会活動への参加では、ママさんコーラス(E)、セミナー・勉強会への参加(N)、社会人学生(O)との回答があった。

そのほか、健康リスク型ではあるが、飲酒(B、C、I、M)、喫煙(H、J)、菓子の摂取(A、C)、偏食(C、K)も見られた。

### (3) 経済的資源の確保

対象者の全員が、経済的資源の確保に関する行動を行っていた。具体的には、アルバイトのかけもちや割の良い副業(内職)経験(B、E、H、I、K、L、M)、実益を兼ねる趣味(懸賞・オークション・株など)(A、B、D、I、L、M、N)を行っていた。

### (4) サポートネットワークの保持

サポートネットワークについては、15名のうち、2名が家族と同居し、8名が家族や親族と同居(最も使用する交通手段で1時間以内の範囲に居住)していた。また、家族や親しい友人といった相談できる資源(サポートネットワーク)を保持していた。親しい友人には、幼馴染や学校時代からの友人(H、J)、子どもを通じて親しくなった友人(D、M)、シングルマザーの友人・知人(C、F、K)、SNSを通じて知り合った友人(I、O)などであった。

### (5) 情報収集・活用・発信行動

対象者の聞き取りを通じて多様性がみられたのは、情報収集・活用・発信行動であった。具体的には、書籍やインターネット等を利用して積極的に自ら情報を集め自身の生活にとり入れる人(B、D、I、M)、さらに、その情報を発信する人(L、O)、暮らし向きの工夫が得意な親族から情報を得る人(L、N)、シングルマザーの友人・知人・家族・同僚から情報を得る人(C、E、F、H、K)など、周囲に自身よりも詳しいことを知る人がおり、その情報源を生かす人に二分された。なお、積極的に情報を集める人の中には、家族からの物理的・精神的サポートが取得しにくい人(I、M)がいた。

## 2. 情報収集力と実利志向からみたシングルマザーの4類型

インタビュー調査の結果より、シングルマザーの行動特性で、情報収集行動と、経済的資源の確保において実益を兼ねる趣味を持つ点につ

いて多様性が見られた。そこで、2つの指標を用いると、情報収集力と実益を兼ねる趣味志向(以下、実利志向とする)からみたシングルマザーの4類型が析出される(図1)。図1を説明する。第I象限は、実利志向が高く、情報収集力の高い女性である。この象限に当てはまる女性は3名(D、I、M)だった。第II象限は、情報収集力が高く、実利志向が低い女性である(C、H、J、K)。4名が該当した。第III象限は、情報収集力も実利志向も低い女性である。1名が該当した(G)。第IV象限は、実利志向が高く情報収集力が低い女性である(A、B、C、E、F、L、N)。I、II、IV象限に該当する女性たちはポジデビと位置づけることが可能である。

以下では、I象限に該当する実利志向も情報収集力も高い先鋭的な3名の女性に着目して、彼女たちの行動特性を解明する。

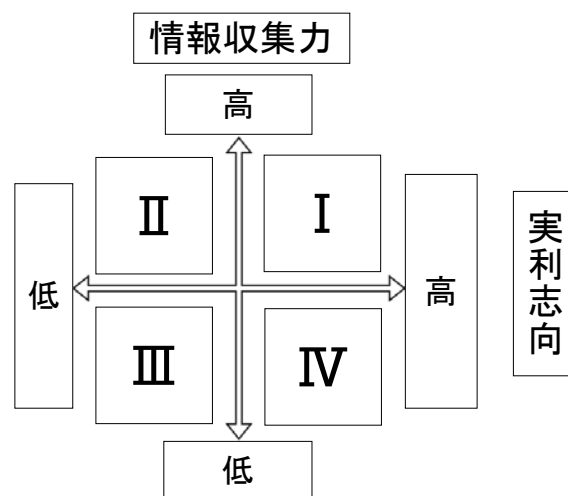


図1 情報収集力と実利志向からみたシングルマザーの4類型

### 3. 先鋭的なポジデビの行動特性

先鋭的なポジデビとして、Dさん、Iさん、Mさんの3名が分類された。インタビュー結果より、彼女たちの特徴は次の3点にまとめられる。

第1に徹底的な情報収集に基づき、自らの力で問題解決する志向性が高い点である。

Dさんは、日常生活において、「自分で考えてネットですること調べて工夫をして楽しむこと

が好き」と語った。また、Mさんも、自身の行動について次のように述べた。

「沢山調べますね、何でも調べますね。図書館で離婚の本をとにかく読む。とにかく読んで、あ、これは役所で教えてくれないんだ、自分から言わなかったらここは流されるんだなって全部チェック、全部書いて。でもわからないことは全部聞く。役所にどんどん聞く。無知なことで失うものってたくさんあるから、そんなことはしない。」

第二に、実利志向が高いだけでなく、安く入手した食材を美味しく調理したり、節約そのものを楽しむなど、生活を豊かにする方法を身につけていることが指摘できる。

Iさんは、「安い食材を見つけて美味しく豪華に見える料理をするのが大好き」で、食材の購入も何がどの程度安く売られているかや、見切り品でも質の良いものを売っている場所がインプットされているという。また、「昔から、割りのより内職を探すのが得意で、三番目(第三子)が小さい頃は新聞の折り込み広告で内職を探していました。今は、スマホがあるから便利」だという。毎週末、「ゲーム感覚で懸賞サイトやアプリ(Q10 など)で情報やポイントを集めている」ため、週末も何かと忙しい。

Dさんは、オークションで衣類を始めほとんどすべての生活用品を購入し、「定価では絶対買わない」。学生時代から、一通りの賭け事を経験し、最近株の運用をしている。特に証券会社に直接出向くと、お勧めのIPOを紹介してもらえるという。「執着せず手放すことを心がけ」、収益を増やす工夫をしている。

Mさんも、10年ほど前からポイントを貯めたり、割の良い副業を行っている。また、高校時代の体調不良がきっかけで、食生活にこだわるようになった。週末に一週間のメニューを考え、家にある食材を使って作りおきをするのが楽しく、「好きなことをして、気持ちを整える」と述

べていた。

最後に、確立されたライフスタイルに自信をもち、他者に提案したいと考えたり、実際にSNSを通じて他者に発信を行う点である。

Dさんは、生活用品を安く入手することを楽しんでる。時に、子どもに自慢をしたり、1人心の中で「ふふふっ」と喜ぶことがあるという。Dさんは、自らの暮らしの工夫について、近い将来クラウドなどを活用して記事を書いて収入を得たいと語っていた。

一方Iさんは、安い食材で作った豪華で美味しい作った料理について、毎日SNSで発信している。コメントや反応があると嬉しく、毎日楽しく更新している。「(日常生活では)自分の理になることを行い、人に安く購入したことを話すことで『優越感』を感じる」と述べていた。

以上示した内容から、先鋭的なポジデビには、問題解決志向性が高く、限られた資源から生活を豊かにし、経済的により安定する方法を熟知し、自らの力でライフスタイルを開拓するといった行動特性があることが示唆された。これらの内容から、図1の第I象限に該当する女性を「ライフスタイル開拓型」と呼ぶことができるだろう。

#### D. 考察

本研究では、シングルマザーを手がかりに、困難な状況下でも主体的な健康づくりを実践する女性たちの課題解決のプロセスとはいかなるものかの解明を目指した。女性たちは、各自の心身の健康維持のために工夫をしていることが明らかになった。また、ソーシャルサポートの保持が、シングルマザーの良好な健康を維持する<sup>8)</sup>という先行研究の知見を支持する結果も得られた。

さらに、先鋭的なポジデビを分析した結果、「ライフスタイル開拓型」という女性の特徴が析出された。彼女たちは、高度な情報収集力を持ち、実利志向が高いだけでなく、問題解決志向性が高く、生活を楽しむ方法を熟知しており、

自らの力でライフスタイルを開拓していることが示唆された。つまり、先鋭的なポジデビである「ライフスタイル開拓型」の女性たちは、困難な状況を生き抜くために、社会資源を自らの生活資源に変換し活用する行動が確立されているといえよう。

本研究はモニター会社を通じてリクルートした15名のデータに基づくものである。今後、本研究の知見の有効性を検証するためには、大規模調査や他のサンプルによるインタビューの実施が必要とされるだろう。

## E. 結論

本研究では、シングルマザーを手がかりに、困難な状況下でも主体的な健康づくりを実践する者(ポジデビ)の行動特性の解明を試みた。その結果、心身の健康維持行動を行いつつ、健康維持の土台となる生活基盤安定のためにサポートネットワークの保持や、経済的資源確保の工夫などといった、社会資源を生活資源に活用する行動特性が見られることが明らかとなった。

## 参考文献

- 1) 神原文子、2010、『子づれシングル—ひとり親家族の自立と社会的支援』明石書店。
- 2) NPO法人しんぐるまざあず・ふぉーらむ、2011、『母子家庭の仕事と暮らし③母子家庭の就労・子育て実態調査報告書』NPO法人しんぐるまざあず・フォーラム発行。
- 3) E Rousou RN, C. Kouta, N. Middleton and M. Karanikola, 2013, 'Single mothers' self-assessment of health: a systematic exploration of the literature', *International Nursing Review*, 60(4): 425-434.
- 4) M Westin and R Westerling, 2006, 'Health and healthcare utilization among single mothers and single fathers in Sweden', *Scandinavian Journal of Public Health*, 34:182-189.

5) M Tobias, S Gerritsen, J Kokaua, and R Templeton, 2009, 'Psychiatric illness among a nationally representative sample of sole and partnered parents in New Zealand', *Australian & New Zealand Journal of Psychiatry*, 43: 136-144.

6) J Walker & CU Krägeloh, 2016, 'Exploring health-related quality of life determinants of New Zealand sole mothers', *Kōtuitui: New Zealand Journal of Social Sciences Online*, 11(1):59-71, DOI: 10.1080/1177083X.2015.1105826.

7) S Fritzell, F Vannoni, M Whitehead, B Burström, G Costa, S Clayton, J Fritzell, 2012 'Does unemployment contribute to the health disadvantage among lone mothers in Britain, Italy and Sweden? Synergy effects and the meaning of family policy' *Health and Place*, 18(2), 199-208.

8) R Pascale, J Sternin, and M Sternin, 2010, *The Power of Positive Deviance: How Unlikely Innovators Solve the World's Toughest Problems*, Harvard Business Review Press.

9) J Walker & CU Krägeloh, 2016, 'Exploring health-related quality of life determinants of New Zealand sole mothers', *Kōtuitui: New Zealand Journal of Social Sciences Online*, 11(1):59-71.

## F. 健康危険情報

なし

## G. 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

なし

## H. 知的財産権の出願・登録状況

特になし

表1 インタビュー対象者別にみたスクリーニング調査結果(健康行動特性)

		インタビュー対象者						p <sup>※</sup>
		全体		対象者		非対象者		
		n	%	n	%	n	%	
主観的身体健康感	とても良い	4	7.5%	1	6.7%	3	7.9%	<b>0.025</b>
	まあ良い	29	54.7%	13	86.7%	16	42.1%	
	あまり良くない	17	32.1%	1	6.7%	16	42.1%	
	良くない	3	5.7%	0	0.0%	3	7.9%	
主観的精神健康感	とても良い	6	11.3%	2	13.3%	4	10.5%	<b>0.007</b>
	まあ良い	24	45.3%	12	80.0%	12	31.6%	
	あまり良くない	15	28.3%	1	6.7%	14	36.8%	
	良くない	8	15.1%	0	0.0%	8	21.1%	
喫煙	吸う	18	34.0%	2	13.3%	16	42.1%	<b>0.046</b>
	吸わない	35	66.0%	13	86.7%	22	57.9%	
飲酒	毎日平均一合以上飲む	8	15.1%	2	13.3%	6	15.8%	0.986
	毎日飲むが平均一合未満	6	11.3%	2	13.3%	4	10.5%	
	毎日のはのまない	24	45.3%	7	46.7%	17	44.7%	
	飲まない	15	28.3%	4	26.7%	11	28.9%	
過去1ヶ月間の平均睡眠時間	5時間未満	8	15.1%	1	6.7%	7	18.4%	0.806
	5時間以上6時間未満	20	37.7%	7	46.7%	13	34.2%	
	6時間以上7時間未満	17	32.1%	5	33.3%	12	31.6%	
	7時間以上8時間未満	6	11.3%	2	13.3%	4	10.5%	
	8時間以上9時間未満	1	1.9%	0	0.0%	1	2.6%	
	9時間以上	1	1.9%	0	0.0%	1	2.6%	
過去1ヶ月間の睡眠による休養度	まったくとれていない	5	9.4%	1	6.7%	4	10.5%	0.915
	あまりとれていない	22	41.5%	6	40.0%	16	42.1%	
	まあまあとれている	18	34.0%	5	33.3%	13	34.2%	
	充分とれている	8	15.1%	3	20.0%	5	13.2%	
過去一年間の健診受診経験	受診しなかった	20	37.7%	5	33.3%	15	39.5%	0.678
	受診した	33	62.3%	10	66.7%	23	60.5%	
経済的理由による過去1年間の食物購入抑制・困難の経験	まったくなかった	27	50.9%	9	60.0%	18	47.4%	0.711
	まれにあった	10	18.9%	3	20.0%	7	18.4%	
	ときどきあった	8	15.1%	2	13.3%	6	15.8%	
	よくあった	8	15.1%	1	6.7%	7	18.4%	

※カイ2乗検定

表2 インタビュー対象者別にみたスクリーニング調査結果(属性・構造的要因)

		インタビュー対象者						p <sup>※</sup>
		全体		対象者		非対象者		
		n	%	n	%	n	%	
同居者	子どものみ	44	83.0%	13	86.7%	31	81.6%	0.657
	家族と同居	9	17.0%	2	13.3%	7	18.4%	
居住地	埼玉県	11	20.8%	3	20.0%	8	21.1%	0.737
	千葉県	8	15.1%	1	6.7%	7	18.4%	
	東京都	31	58.5%	10	66.7%	21	55.3%	
	神奈川県	3	5.7%	1	6.7%	2	5.3%	
学歴	中学校	1	1.9%	0	0.0%	1	2.6%	<b>0.008</b>
	高校	18	34.0%	6	40.0%	12	31.6%	
	専門学校(専修課程/入学資格・中卒以上)	1	1.9%	0	0.0%	1	2.6%	
	専門学校(高等課程/入学資格・高卒以上)	11	20.8%	0	0.0%	11	28.9%	
	短大・高専	12	22.6%	8	53.3%	4	10.5%	
	大学	10	18.9%	1	6.7%	9	23.7%	
職業	会社員	28	52.8%	7	46.7%	21	55.3%	0.944
	自営業	4	7.5%	1	6.7%	3	7.9%	
	自由業(フリーランス)	2	3.8%	1	6.7%	1	2.6%	
	パート・アルバイト	11	20.8%	4	26.7%	7	18.4%	
	主婦	4	7.5%	1	6.7%	3	7.9%	
	無職	2	3.8%	1	6.7%	1	2.6%	
	就職先内定	1	1.9%	0	0.0%	1	2.6%	
	療養中	1	1.9%	0	0.0%	1	2.6%	
個人収入	収入なし	8	15.1%	2	13.3%	6	15.8%	0.900
	200万円未満	6	11.3%	2	13.3%	4	10.5%	
	200~300万円未満	14	26.4%	5	33.3%	9	23.7%	
	300~400万円未満	9	17.0%	3	20.0%	6	15.8%	
	400~600万円未満	9	17.0%	3	20.0%	6	15.8%	
	600~800万円未満	4	7.5%	0	0.0%	4	10.5%	
	800~1000万円未満	1	1.9%	0	0.0%	1	2.6%	
	1000~1200万円未満	1	1.9%	0	0.0%	1	2.6%	
	わからない/教えたくない	1	1.9%	0	0.0%	1	2.6%	
世帯収入	200万円未満	5	9.4%	2	13.3%	3	7.9%	0.349
	200~300万円未満	9	17.0%	3	20.0%	6	15.8%	
	300~400万円未満	9	17.0%	5	33.3%	4	10.5%	
	400~600万円未満	10	18.9%	4	26.7%	6	15.8%	
	600~800万円未満	10	18.9%	1	6.7%	9	23.7%	
	800~1000万円未満	3	5.7%	0	0.0%	3	7.9%	
	1000~1200万円未満	1	1.9%	0	0.0%	1	2.6%	
	1200万円~1500万円未満	1	1.9%	0	0.0%	1	2.6%	
	1500~2000万円未満	2	3.8%	0	0.0%	2	5.3%	
	わからない/教えたくない	3	5.7%	0	0.0%	3	7.9%	
暮らし向き の状況	大変苦しい	12	22.6%	3	20.0%	9	23.7%	0.268
	やや苦しい	20	37.7%	9	60.0%	11	28.9%	
	普通	18	34.0%	3	20.0%	15	39.5%	
	ややゆとりがある	2	3.8%	0	0.0%	2	5.3%	
	大変ゆとりがある	1	1.9%	0	0.0%	1	2.6%	

※カイ2乗検定

表3 インタビュー対象者別にみたスクリーニング調査結果(年齢等)

項目	インタビュー対象者						<i>t</i>	<i>d</i>
	全体 n=53		対象者 n=15		非対象者 n=38			
	平均	SD	平均	SD	平均	SD		
年齢	47.94	8.11	46.07	6.72	48.68	8.56	-1.06	-2.62
身長	158	4.79	159	4.99	158	4.73	0.84	1.23
体重	52	7.68	52	5.57	52	8.43	-0.14	-0.33
BMI	21	3.16	20	2.37	21	3.44	-0.44	-0.43
同居者数(当人含む)	3	0.73	3	0.49	3	0.81	-0.08	-0.02
子どもの数	2	0.66	2	0.70	1	0.60	2.38 *	0.46
第一子年齢	20	7.93	18	6.97	21	8.21	-1.25	-3.02
第二子年齢	18	7.51	16	7.65	19	7.48	-0.85	-2.51
第三子年齢	17	4.66	20	2.00	12	1.41	4.80 *	8.00
1年間の悩み・困りごと数	3	2.01	3	2.01	3	2.04	-0.40	-0.25
困ったときに相談・手助けを 求める人・機関の数	2	1.92	2	1.98	2	1.92	0.25	0.15

\* $p < 0.05$  (対応のないt検定)



表4 インタビュー対象者一覧表(その1)

仮名	年齢	ポジティブ	属性										アウトカム		身体状況			
			シングルマザー歴	居住地	同居者 (本人含)	子どもの数	同居している子どもの数	第一子 別居 年齢 性別 学齢	第二子 別居 年齢 性別 学齢	第三子 別居 年齢 性別 学齢	主観的健康感 身体的健康 精神的健康	身長	体重	既往症等★				
A	30	ポジティブ	1年	東京都	3人	2人	2人	同居している	6	女	保育園生	3	男	保育園生		167	59	
B	54	ポジティブ	19年	東京都	2人	3人	1人	同居している	30	男	社会人	27	女	社会人	22	女	大学生	
C	43	ポジティブ	2ヶ月	東京都	2人	1人	1人	同居している	16	女	高校生					156	42	
D	45	先鋭的ポジティブ	6年	東京都	3人	1人	1人	同居している	8	男	小学生					156	52	子宮ポリープ
E	40	ポジティブ	5年	千葉県	3人	2人	2人	同居している	10	女	小学生	8	男	小学生		159	48	
F	40	ポジティブ	9年	東京都	3人	2人	2人	同居している	16	男	高校生	11	男	小学生		151	58	顔面麻痺 喘息
H	41	ポジティブ	16年	東京都	2人	2人	1人	同居している	20	女	社会人	17	男	高校生		160	53	腎臓一部切除
I	54	先鋭的ポジティブ	累積7年	埼玉県	3人	3人	2人	同居している	24	女	社会人	23	女	大学生	18	男	高校生	
J	43	ポジティブ	3年	東京都	3人	2人	2人	同居している	11	男	小学生	10	男	小学生		164	50	
K	48	ポジティブ	10年	東京都	3人	2人	2人	同居している	23	男	社会人	20	女	大学生		154	50	
L	52	ポジティブ	20年	埼玉県	3人	1人	1人	同居している	21	男	大学生					155	49	高血圧
M	48	先鋭的ポジティブ	14年	東京都	3人	2人	2人	同居している	18	女	高校生	15	男	中学生		165	43	心療内科経験有
N	52	ポジティブ	13年	神奈川県	3人	2人	2人	同居している	21	男	大学生	18	男	大学生		160	53	
O	53	ポジティブ	8年	東京都	2人	1人	1人	同居している	15	女	中学生					167	59	
G	48	非ポジティブ	16年	埼玉県	2人	3人	1人	同居している	27	女	社会人	26	男	社会人	20	男	大学生	

凡例：★印インタビュー結果より追加。それ以外はスクリーニング調査結果

表5 インタビュー対象者一覧表(その2)

		中間決定要因:健康行動特性							中間決定要因:心理社会的特性						
仮名	健康リスク数	喫煙	飲酒	休養	ヘルスケア (過去1年間行動)	物的環境	心身の健康維持活動		ストレス	サポートネットワーク	家族のサポートネットワーク			非家族サポートネットワーク	シングルマザーネットワーク
							身体的健康 取り組み数	心の健康 取り組み数			家族談話 できる数	日常付き合 いの距離	家族・親に 占める割合		
A	0	吸わない	毎日飲まない	まあまあとれている	受診	まったくなかった	2	4	6	4	3	近居	75%	25%	
B	1	吸わない	毎日平均1合以上	まあまあとれている	受診	まったくなかった	1	4	3	1	0	遠居	0%	100%	
C	1	吸わない	毎日飲まない	あまりとれていない	受診	まったくなかった	2	3	7	5	2	遠居	40%	60%	有
D	0	吸わない	毎日飲まない	充分とれている	非受診	まれにあった	3	5	2	8	2	同居	25%	75%	
E	0	吸わない	毎日飲まない	まあまあとれている	受診	まれにあった	1	6	5	1	1	近居	100%	0%	有
F	1	吸わない	毎日飲まない	あまりとれていない	非受診	ときどきあった	6	3	5	2	0	近居	0%	100%	有
H	1	吸う	毎日飲まない	充分とれている	受診	まったくなかった	2	3	5	1	1	近居	100%	0%	
I	1	吸わない	毎日平均1合以上	まあまあとれている	非受診	まったくなかった	2	5	3	0	0	遠居	0%	0%	
J	1	吸う	飲まない	充分とれている	受診	まったくなかった	2	3	1	3	2	近居	67%	33%	
K	0	吸わない	飲まない	まあまあとれている	非受診	よくあった	2	4	1	1	1	近居	100%	0%	有
L	1	吸わない	飲まない	あまりとれていない	受診	まったくなかった	3	4	2	1	1	同居	100%	0%	
M	1	吸わない	毎日平均1合未満	まったくとれていない	非受診	まったくなかった	5	7	1	1	0	該当無	0%	100%	
N	1	吸わない	毎日飲まない	あまりとれていない	受診	まれにあった	2	4	2	0	0	遠居	0%	0%	
O	1	吸わない	毎日平均1合未満	あまりとれていない	受診	まったくなかった	3	6	1	1	1	近居	100%	0%	
G	1	吸わない	飲まない	あまりとれていない	受診	ときどきあった	1	1	4	3	0	遠居	0%	100%	

表 6 ポジデビ一覧表 3

仮名	中間決定要因：そのほかの行動特性				構造的要因				主観的生活状況	養育費				
	経済的資源の確保に関する知識・行動		情報収集・活用・発信		教育	職業					収入			
	暮らし向きの工夫 他者の存在★	モニター会社 参加回数	懸賞・内職 経験★	(情報発信力 等)★	底的な情報 収集★	他者を通じた 情報収集★	最終学歴	職業	業種	職種	個人収入	世帯収入		
A		有	有				高校	会社員	化粧品	事務	300~400万 円未満	300~400万 円未満	やや苦しい	無
B		有	有		高		短期大学	会社員(有期社員)	通信	事務	200~300万 円未満	200~300万 円未満	やや苦しい	有
C		有	有			高	短期大学	パート・アルバイト	飲食	接客	200~300万 円未満	200~300万 円未満	やや苦しい	支払い予定
D		無	有		高	高	大学	主婦			400~600万 円未満	400~600万 円未満	やや苦しい	不明
E		有	有				高校	会社員	医療機関	一般事務	300~400万 円未満	300~400万 円未満	やや苦しい	無
F		有	有				短期大学	自営業(英会話・フラダ ンスインストラクター)	サービス	インストラクター	400~600万 円未満	400~600万 円未満	やや苦しい	有
H		無	無				高校	無職			300~400万 円未満	300~400万 円未満	やや苦しい	有
I		有	有		高	高	高校	パート・アルバイト	派遣	キャスト	200万円未満	200万円未満	普通	有
J		有	有				短期大学	パート・アルバイト	サービス	事務	200万円未満	200万円未満	普通	有
K		有	有				短期大学	会社員	図書館	サービス	200~300万 円未満	200~300万 円未満	大変苦しい	無
L	有	有	有				高校	パート・アルバイト	金融	事務	200~300万 円未満	600~800万 円未満	やや苦しい	無
M		無	有		高		短期大学	会社員	IT	経理	300~400万 円未満	300~400万 円未満	大変苦しい	一部有
N	有	無	有				短期大学	自由業(フリーランス)			200~300万 円未満	300~400万 円未満	大変苦しい	有
O		有	有		高		短期大学	会社員	任意団体	総務事務	400~600万 円未満	400~600万 円未満	普通	有
G		無	無				高校	会社員	建設	事務	400~600万 円未満	400~600万 円未満	やや苦しい	無